

来週の市場とレート予想					
	4/3 (月)	4/4 (火)	4/5 (水)	4/6 (木)	4/7 (金)
無担保O/N	△0 . 0 8 6 % ~ 0 . 0 0 1 %				
銀行券	+ 1,300	+ 1,000	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 3,700	△ 8,000	+ 2,000	△ 24,000	+ 1,000
資金需給	△ 2,400	△ 7,000	+ 2,000	不 24,000	ト ン
主な要因		法人税・保険揚げ 普通交付税		国庫短期証券発行・償還(3M) 国債発行(10年)	
オペ期日	国債売現先 + 10,000 共通担保(全店) △ 3,100 CP等買入 △ 200 国債補完供給 + 24,200				
オペスタート	共通担保(全店) + 3,000	国債買入 + 11,300			
(日本)	日銀短観(3月調査)	日銀短観(3月調査全容、 「企業物価見通し」概要) マネタリーベース(3月) 日銀が保有する国債の 銘柄別買入額 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額 基調的なインフレ率を 補足するための指標	日銀当座預金増減要因 (4月見込み) 需給ギャップと潜在成長率	消費動向調査(3月)	毎月勤労統計(2月) 日銀毎営業旬報告 (3月31日現在) 景気動向指数(2月)
(海外)	米 ISM製造業景況指数(3月) 米 ニューヨーク連銀総裁、講演 米 フィラデルフィア連銀総裁、講演 米 リッチモンド連銀総裁、講演 欧 ユーロ圏製造業PMI (3月、改定値) 欧 ユーロ圏失業率(2月)	米 貿易収支(2月) 米 製造業受注(2月) 米 タルーロFRB理事、講演	米 ADP雇用統計(3月) 米 ISM非製造業景況指数(3月) 米 FOMC議事録 (3月14-15日会合分) 欧 ユーロ圏総合PMI(3月 改定値)	米 新規失業保険申請件数 (1日終了週) 欧 ECB議事要旨 独 米サンフランシスコ連銀総裁、 講演(フランクフルト)	米 雇用統計(3月) 欧 ユーロ圏財務相会合 (ユーログループ、マルタ)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.03 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.01 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.01 ~ 0.001

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、先週末対比1兆6,200億円増加の340兆9,100億円から始まり、その後も国債買入や、財政要因(公共事業費支払い等)により増加し、週末には342兆8,200億円となった。
無担保コールON物は昨週に比べ弱含み、加重平均金利は27～30日までは△0.047～△0.044%での推移となった。また、年度末越えとなる31日はさらにビッドが薄い展開となり、同金利は△0.06%と、2016年9月30日以来6ヶ月ぶりの低水準となった。
ターム物では、期内物で△0.03～0%程度、年度末越え1Wで△0.030～△0.015%程度の出合いが散見された。
31日に実施された年度末越えの国債補完供給は、落札額23,286億円と過去最高を更新した。
来週は国内では3日に日銀短観(3月調査)、4日に日銀短観(3月調査全容、「企業物価見通し」概要)、海外では7日に米雇用統計の発表が予定されている。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.350 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆2,800億円で、週間償還額の約3兆3,600億円(金融機関・ABCP除く)に対し、年度末の事業法人による有利子負債圧縮の動きから大きく下回る結果となった。新発物の発行レートについては、投資家の運用ニーズは強く0.001%割れでほぼ横ばい圏内での出合いとなった。
来週の償還額は、期初期落ち案件が少ないため約3,900億円となっている。発行レートは、玉不足もあって低位横ばい推移が予想される。
5日に、CP等買い入れオペ(3,500億円程度)のオファーが予定されている。

<TDB>

今週は国庫短期証券の入札は実施なし。日銀がレポ市場の逼迫に対応し、8年ぶりの売現先オペを実施したことや、2週にわたり国庫短期証券オペを見送った結果、新発3Mは▲0.22～△0.20%程度と先週末水準(△0.30%程度)からマイナス幅を縮小した。6M、1Yは目立った出合いは見られず。来週は4日と6日に3M、5日に6Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.04%台の出合いから始まり、30日受渡しでは△0.03%～△0.02%まで上昇した。年度末受渡しでは国債の流動性低下の為レートが急低下。
△0.60%以下の水準でも出合いが見られた。4月入り後はレート水準が回復。週末にかけて△0.05%台まで上昇した。SC取引では10年334回債のbidが週を通して多く、△0.35%～△0.25%の出合いが見られた。月末物O/Nにおいては、GCレートの低下に連動して多くの銘柄が△0.80%～△0.60%台で取引された。他では2年372・373・374回債、5年126・129・130・131回債、10年333・335・343・344・345・346回債、20年159・160回債、30年52・53・54回債などに引合いが多かった。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。